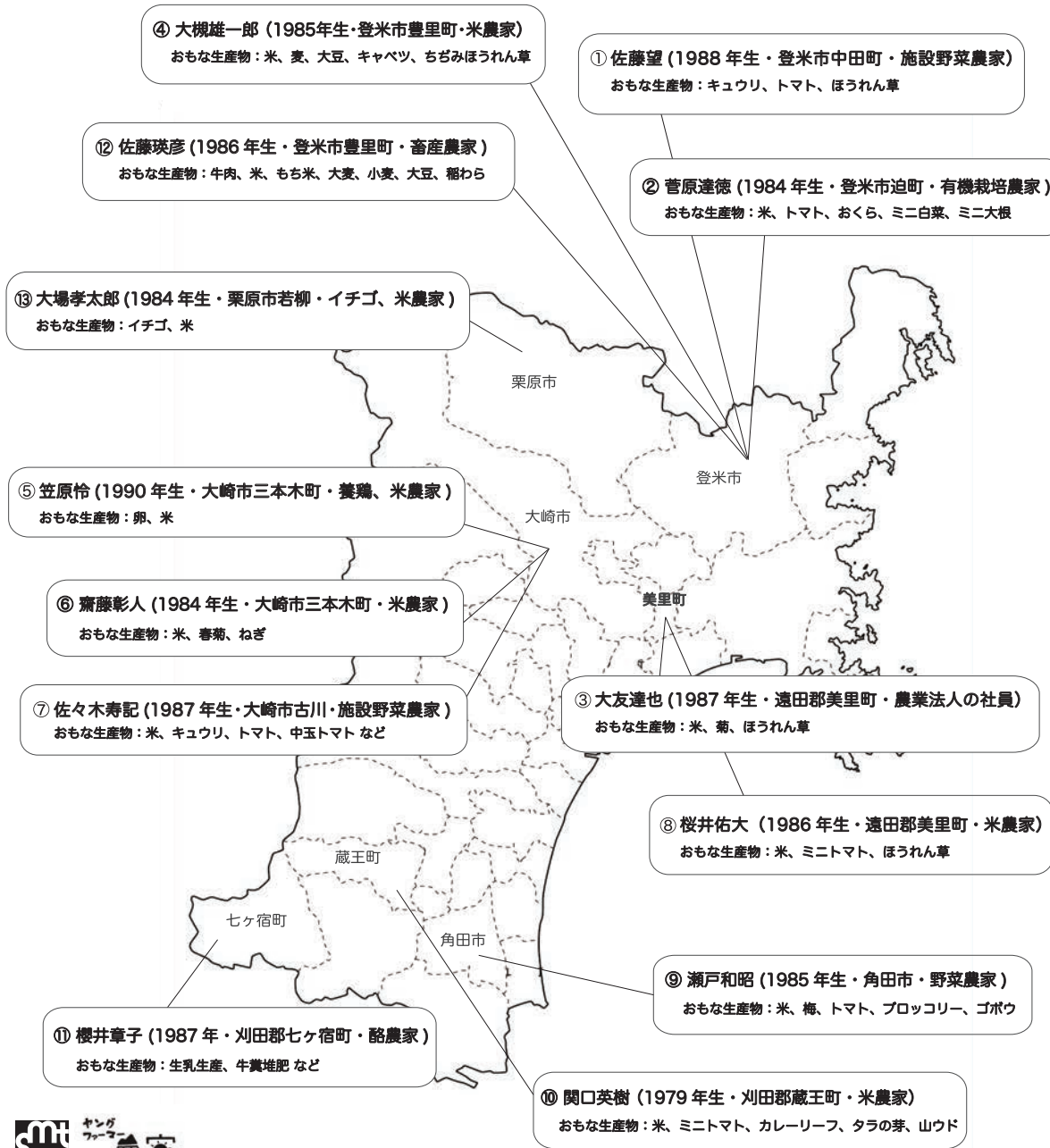


ヤングファーマー農宴に集う みやぎのヤングファーマーたち



みなさま、初めまして！県北の登米市で施設園芸をしています。野菜たちにたくさんの愛情を込めて栽培しています。おなかいっぱい食べてください！



地域の資材を使い、地域の人たちのために、旬の農産物を作りたい！！それが、安心して食べられて、ウマければなお良いのになー。The 地産地消！



美里町出身、現在は大崎市鹿島台の農業法人で働いています。自分の家で仕事をしている仲間達とは少し違った環境にいますが、同じ志を持って毎日仕事に励んでいます。



食に携わる農家の長男として生を授かり、食を生業として、食を通じて人々の幸せと笑顔を守るため、ファーマーとして果てしない旅はつづく。



三本木で祖父母と養鶏農家をしています。消費者の方々に毎日うみたての卵を食べていただきたく、頑張っています。



子どもに美味しい！と言ってもらえるお米を目指して農業をやっています。そして子どもが憧れる農業を目指します。



大崎市でお米、キュウリ、トマトを作っています。切磋琢磨しながら、日々頑張っています。ぜひ大崎平野で育てたお米、野菜を食べてください。



みなさんに美味しい！と言ってもらえるお米、野菜をこれからも一生懸命作っていきます！



角田でだっ広い畑と果樹園、小さな田んぼも添えて楽しい農業・独り立ちを目指し悪戦苦闘中！夏はトマトが一押しです！



蔵王町に関口家長男として生まれ、小学校の時農業の道を進むことを決意。みなさまの『かかりつけ農家』を目指して、本日も濃厚な農耕♪



七ヶ宿で酪農をしています。基本的に家族と牛たちにしか会わない毎日。7年目くらい、もはや修行の域。かわいそうな私と友達になってください。

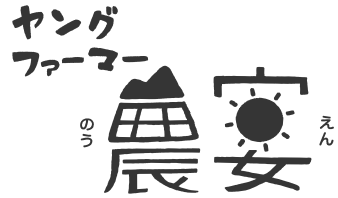


幼い頃から田んぼや牛の世話に出て、土や草の匂い、風を感じながら育ってきました。地域農業の担い手になっていける農業者になれるよう日々奮闘中！よろしく！！



父親の稲作を手伝いながら、おもにイチゴを栽培しています。ほかにも、春にはクレマチスが見頃になり、秋にはブドウもなります！興味のある方はぜひ栗原へ！

ヤングファーマー農宴とは…宮城県内の若手農家がホストとなり、食卓に並ぶ農作物や農業という営みについてゆるやかに考える場をひらきます。現場のリアルな声を届けつつ、参加者のみなさんと近い未来の食卓を描いていきます。



第5回

「つくる安心？たべる安心？」を終えて…

ヤングファーマー農宴メンバーが
本番を振り返る！

瀬戸 和昭（角田市・野菜農家）

今回話す機会がありませんでしたが、我が家では野菜ごとにある各県の農薬・肥料栽培基準の半分程度の農薬・化学肥料、もしくはそれに準ずる形を目標に栽培しております。

私が参加できなかったのも含め何回かのヤングファーマー農宴を通して「災害と農業」では通常の食料供給ルートが停止しても、ご近所に声かけをし対面で食料を供給することができるようにまずは宮城県各地の農家を知ってもらうことから生まれる安心。「TPPと農業」では先行きが見えない農業政策の流れの中でのつくる安心。などを私なりに考えて今回の「つくる安心？たべる安心？」に参加しました。

今回の対話では農薬混入などで騒がれた「農薬って危ない」から「農薬の使い方を間違えると危ない」に細分化したのかと思います。農家的にも、農薬は散布する農薬・機械のコストがかかるために使いたくはないのですが、散布しないから発生する雑草・病気・害虫対策を天秤にかけて再生産するためには背に腹は変えられない点もあります。農家ごとの葛藤を他のメンバーからも見えた気がしました。伝えようとしても伝わらないものでありますが、個人的にも農業に関する事を伝える努力をしていきたいと思っています。

大友 達也（遠田郡美里町・農業法人の社員）

私自身マルシェなどの農産物の販売会に参加してそこでお客さんと軽く話をすることはあっても、今回のような生産者と消費者が『対話』するという催しは初めての体験でした。

当日はどのような回になるのかワクワクと不安が入り混じっていましたが、始まってみれば和やかな雰囲気になっていました。参加された方々も大学生やフリーアナウンサー、料理人とさまざまなバックグラウンドをもった人たちで、それぞれの立場から食に対する思いを語ってくれていました。

ですが、今回の対話のテーマが『つくる安心？たべる安心？』ということで生産者側の語る内容が農薬に偏り過ぎてしまい、土づくりや衛生管理などテーマに通ずる取り組みを語る事ができたはずなのにそれが出来なかったのが残念だったと思います。

過去数回行われてきたヤングファーマー農宴ですが、今回初めて準備から参加させてもらい催しを企画・運営する楽しさとむずかしさを学ばせてもらいました。また、生産者として料理を提供する人や農産物を集め販売する人、家族にご飯をつくる主婦など沢山の方々の声を聴くことが出来て今後仕事をしていくにあたっての励みになりました。

佐々木 寿記（大崎市古川・施設野菜農家）

今回初めてヤングファーマー農宴に参加してみて、参加者との距離が近く日ごろ農作業をしているだけでは聞けない参加者の農業や食の安心に対する生の声が聞けてよかった。安心ということ参加者の皆様からは産直の利用や有機や無農薬野菜を購入するという事が聞けた。やはり農薬=悪いイメージがあったので、参加者に農薬=悪という簡単な図式では表せないことも一部、知ってもらえてよかった。グループごとに参加者とも意見を交わす時間がもう少しでもあればよかったとも思っています。

佐藤 望（登米市中田町・施設野菜農家）

1月31日に行われた、ヤングファーマー農宴。前日は雪で大荒れ。不安でしたが、当日は晴れて安心しながら会場へ。会場に着いて真っ先に思ったのは、参加者さんが若い！しかも女性多い！実はわたし2回目の参加なのですが、1回目の参加時よりも学生さんや同年代の方が多いかな、と感じました。今回のテーマは「つくる安心？ たべる安心？」。そのこともあって、女性や若い方が多かったのでしょうか。農業女子としては、参加者さんに女性が多いと嬉しい気持ちになります。

そして今回わたしは黒板書記という大役を任せていただいたおかげで、参加者さん全体を見れる最高のポジションで農宴に携われました。ヤングファーマー農宴が本題に入り、話し合いが進む中で、「長く食べることを考えるならば、農薬の使用や放射能汚染もない方がいい」と言う参加者さんの言葉がありましたが、農家のわたしも同じように思いました。

わたしは農家であっても、自分が栽培している野菜以外は消費者という立場になり、安全かどうか「無農薬」や「有機栽培」などのポップを見て判断してしまいます。農家が口頭で「この作物は安全です」と言っても、納得できない人もたくさん居るのだろうと実感したし、理解してもらう方法を見つけたい！と今後の課題にもなりました。

また、たくさんの方に参加していただけたのだからひとりひとりともっとお話ししたいと思います。各テーブルごとに話し合って代表者が答える、という形があってもいいのかもしれませんが、農宴終了後のアンケートだけでなく、事前アンケート的なものを書いていただければテーマにそれずにスムーズに進むのかなと思いました。わたし自身は2回目の参加で前回よりも緊張せず話し合いに参加できて、とても有意義な時間を過ごせました。このイベントに携わり参加してくださった皆様にも感謝しています。ありがとうございました。

